演題 73	定住自立圏を活用した地域の医療課題克服への取り組み
	発　表　者　久喜　邦康（埼玉県　秩父市）

定住自立圏を活用した地域の医療課題克服への取組

【趣旨】祭と札所、自然・芝桜のまち秩父

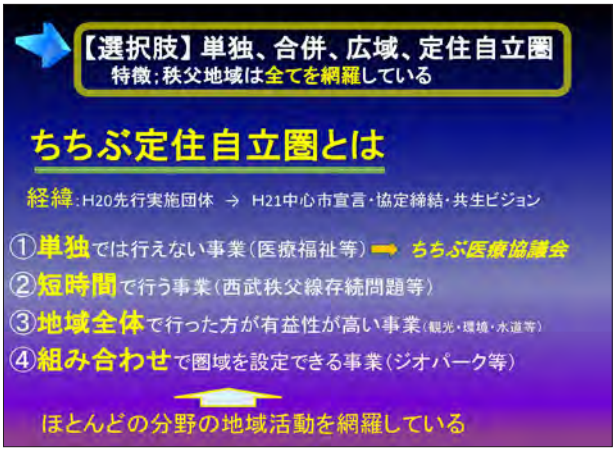
秩父では、全国の地方で見受けられる下記の問題に直面してきた。

①少子高齢化の急速な進行

②救急医療と産科医療の崩壊

③病院での勤務医不足

⇒1市4町で定住自立圏形成協定を締結し、医療に重点配分してこの難局を乗り越えてきた。本日はこれを発表する。



ちちぶ定住自立圏とは

自治体事業には、①単独②市町村合併③広域組合④定住自立圏と4つの選択肢がある。このうち定住自立圏について説明する。

ちちぶ定住自立圏はH21年に協定を締結し共生ビジョンを策定。このうち定住自立圏でどのような事業を行ったか？

①単独では行えない事業（医療・福祉等）⇒ちちぶ医療協議会

②短時間で行う事業⇒西武秩父線存続問題

③秩父地域全体で行った方が有益性の高い事業⇒観光・環境・水道

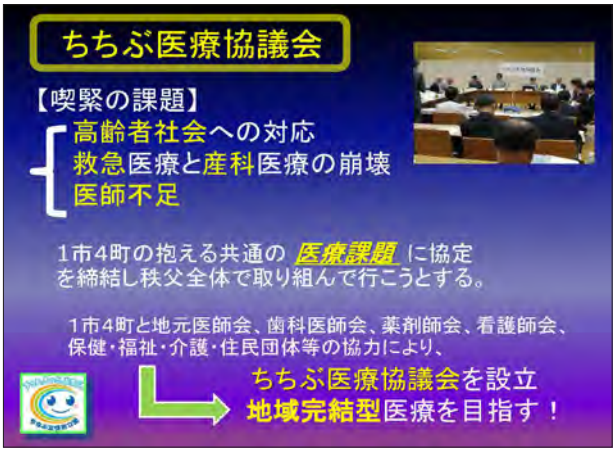
④組み合わせで行う事業⇒ジオパーク

現在定住自立圏事業は、秩父圏域で行う事業にほとんどの分野を網羅している。

ちちぶ定住自立圏の推進体制

医療から人材育成など10分野のWGで協議された事項を幹事会で調整。

1市4町の首長等で組織された推進委員会で決定する。



ちちぶ医療協議会

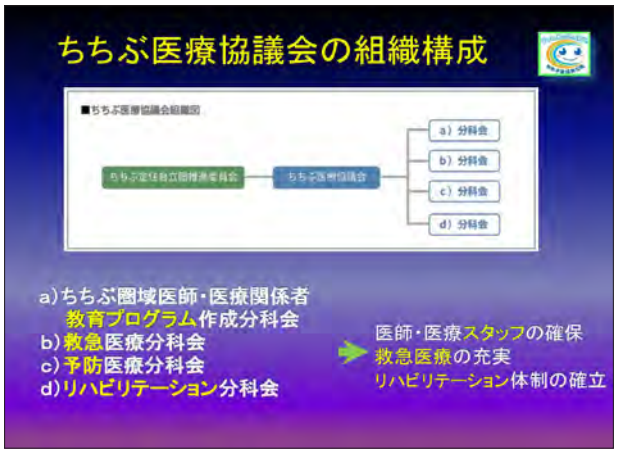
秩父圏域の喫緊の課題は

①医療環境の高齢者社会の対応

②救急・産科医療の崩壊

③医師不足

この共通の課題に対して定住自立圏で協定を締結し秩父圏域全体で取り組んでいる。1市4町と医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師会・保健・福祉・介護・住民代表でちちぶ医療協議会を設立し地域完結型医療を目指す。



ちちぶ医療協議会の組織構成

先ほどのちちぶ定住自立圏推進委員会の下部組織に位置。

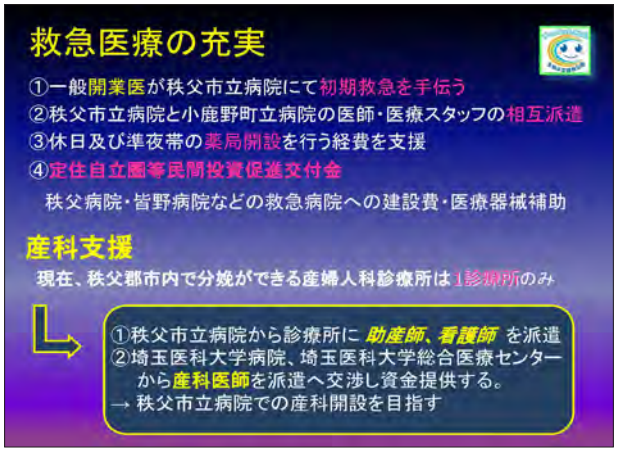
①医師養成の教育プログラム作成分科会

②救急医療分科会

③予防医療分科会

④リハビリテーション分科会

があり、医師・医療スタッフの確保、救急医療の充実、リハビリテーション体制の確立を目指す。



救急医療の充実

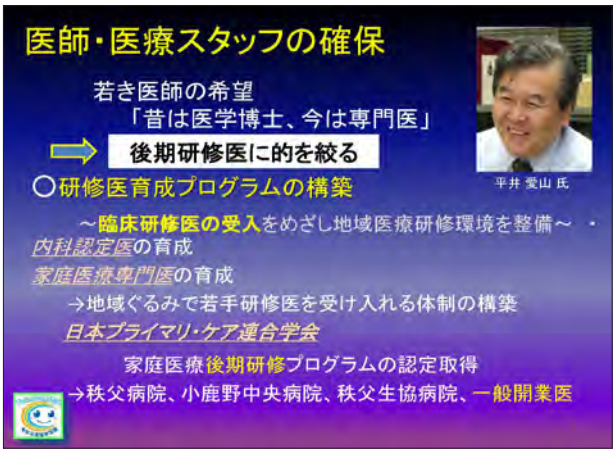
①一般開業医が市立病院で初期救急を手伝う

②市立病院と小鹿野町立病院のスタッフ相互派遣

③定住自立圏等民間投資促進交付金による補助

④産科支援；市立病院より助産師、看護師の派遣
埼玉医大からの産科医師の派遣に資金提供する

いずれは市立病院で産科開設を目指す。



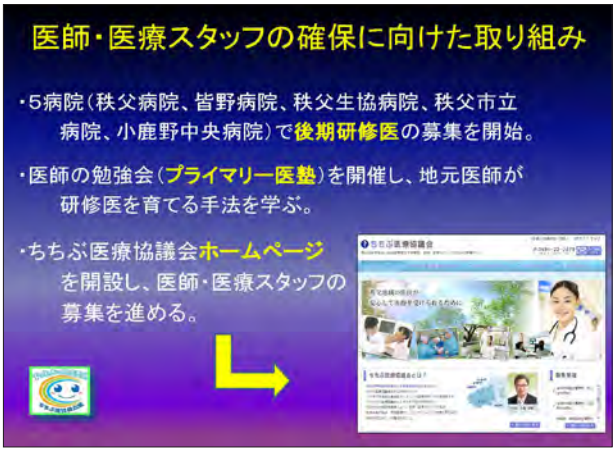
医師・医療スタッフの確保

若き医師の希望として「昔は医学博士、今は専門医」後期研修医に的を絞って専門医資格をとらせる。

研修医育成プログラムを構築して臨床研修医の受入を目指し地域医療研修環境を整備する。

内科認定医・家庭医療専門医の育成
地域ぐるみで若手研修医を受け入れる体制を構築する。具体的には日本プライマリー・ケア連合学会で家庭医療後期研修プログラムの認定取得を目指す。

研修場所は、秩父病院・小鹿野中央病院、生協病院と一般開業医。



医師・医療スタッフの確保に向けた取組

①５病院（秩父病院・皆野病院・生協病院・市立病院・小鹿野中央病院）で後期研修医を募集

②プライマリー医塾（医師の勉強会）を開催し、地元医師が研修医を育てる手法を学ぶ。

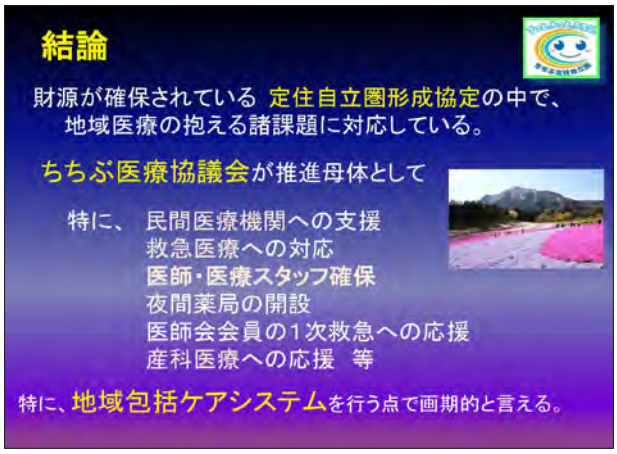
③ちちぶ医療協議会のホームページを解説し医師・医療スタッフの募集を始める。

定住自立圏の中のちちぶ版地域包括ケアシステム

①それぞれの「地域ケア会議」で地域の課題を抽出する。

②市立病院で「圏域ケア連携会議」で地域の課題の共有化を図り、事例を蓄積する。

③「圏域ケア推進会議」でこれらの課題解決のために政策提言や行政計画をたてる。



財源が確保されている定住自立圏形成協定の中で地域医療が抱えている諸課題に対応している。

ちちぶ医療協議会が推進母体として、特に、民間医療機関への支援、救急医療への対応、医師・医療スタッフの確保、夜間薬局の開設、医師会会員の１次救急への応援、産科医療への応援　等。

特に、地域包括ケアシステムを行う点で画期的と言える。